

龍谷富山高等学校 令和2年度 学校総合評価

1. 今年度の重点課題に対する総合評価

令和2年度は、6項目の重点課題を設定して目標達成に向けて取り組んだが、A（達成した）が0項目、B（ほぼ達成した）が1項目、C（現状維持）が5項目という評価となった。今年度は、新型コロナウイルス感染症による休校措置や行事の中止、縮小により教育活動が大幅に制限された。このことが、今回の評価結果になった一因だと考えられる。

各アクションプランは次のページ以降に記載するとおりであるが、重点課題と達成状況を概観すると以下ようになる。

教科指導については、家庭学習の定着に向けた方策を講じるため、平日、休日、考查中の「学習時間調査」を行った。また、新たな取り組みとして、学校や家庭での意欲や積極性を計る「学校評価アンケート」を実施した。調査結果に基づき、学習課題の検討及び継続的な提供が今後の課題である。

宗教教育については、全校による宗教行事はできなかったが、クラスや学年単位での礼拝において、教職員や生徒による多様な視点からの講話を聴く機会をもつことができた。

進路指導については、大学進学希望者に対する適切な進学情報の提供や個別指導により、合格に結び付けていったが目標数には届かなかった。就職については、コロナ禍により求人数の減少はあったが、就職希望者は全員内定した。

生徒指導については、「いじめを許さない」、「県下一の挨拶」、「時間厳守」を重点課題として取り組んだ。大半の生徒は、良好な人間関係を築ことし、さわやかな挨拶や時間厳守を身につけようと努めていた。しかし、一部の生徒において規範意識の薄さがみられた。

特別活動については、学校行事や委員会活動において大きく制限されたが、生徒会執行部を中心としてベルマークやエコキャップの回収運動、朝の挨拶運動などできることに取り組んだ。回収運動においては、同じ学園内の幼稚園及び本願寺富山別院と協力しながら行った。

環境と健康指導については、新型コロナウイルス感染症対策としての消毒作業が環境美化にもつながった。11月に実施した生徒健康診断は、感染防止のため分散登校による検診という新たな試みだったが、特に問題なく実施できた。

2. 次年度へ向けての課題と方策

具体的な課題と方策については、各分掌のアクションプランに記載されているが、全体として特に次の点を考慮して策定していく。

- ・学力向上につなげる教育活動の改善に向けて、従来の方策を検証し、本校生徒の実態に合った「重点課題」と「方策」を設定する。
- ・達成目標については、教職員が一体となって取り組んでいけるものにし、できるだけ具体的に明確なものとする。評価方法については数値化できるものは数値を記載する。